



マット運動を学ぶ

先週27日(金)は、5年生の体育の授業に、市教育の紹介で体育実技の向上を目的に錦井さんをお招きしました。錦井さんは、元体操選手で、熊本市教育委員会実技指導員にも任命されている方です。基礎的な動きから、前転のポイントやそこから発展した側方倒立回転や首はね起きや頭はね起きなど、実際に、目の前で実技をしてくださって、子供たちも技に挑戦しながら、技を繰り返すためのコツを体感しながらマット運動を楽しむことができました。

子供たちの感想の中には、「ゆりかごで体を揺らすときに、スムーズにいかないときに、ブランコの足^{*}で曲げて伸ばしてを繰り返すと、スムーズにきました。」
「体を柔らかくするコツや前転をやりやすくするコツ、側転のコツ、3点倒立のコツなど教えてくださって、これからのマット運動に生かしていきたいです。」とあり、マット運動への意欲や楽しみを見出してくれたようです。マット運動は、これからも体育の中で挑戦して行ってほしいと思います。他学年の子供たちも、お風呂上りなどで、体を柔らかくする運動をしておく、跳び箱・マット運動の際に役に立ちますよ。

^{*}ブランコを揺らすときに足に力を入れますが、ゆりかご(画像参照)の際も、その足の動きの要領で体を揺らすとうまくいきます



半導体の秘密

台湾からの半導体工場の誘致に成功し、熊本は全国から関心を集めています。半導体不足で車の生産ができなくなっているという話題は、記憶に新しいところです。この半導体とは「半導体材料を加工して作った半導体回路」を意味しています。半導体回路は、車以外にもスマートフォン、デジタルカメラ、テレビ、パソコンのCPU、洗濯機、冷蔵庫、炊飯器、LED電球など、私たちの生活には欠かせない物です。そもそも「半導体」とはどのようなものなのでしょう?漢字を読み解くと、「半分の導体」ということになります。導体とは、鉄の様に電気を流すものを言います。それでは電気を流さない物の代表格はゴムですが、ゴムのことは「絶縁体」と呼びます。どうやら「半導体」というのは、絶縁体と導体の半分の性質を持っているということがわかります。導体の中には、自由に動き回れる「電子」がたくさんありますが、絶縁体の「電子」は自由に動きません。半導体の電子も絶縁体と同じく、ほとんど動けないので、基本的には電気を流しません。ある種の物質を流し込めば、一部の電子が動けるようになり、電気が流れるようになります。このように、電気を外部の影響によって、通したり通さなくしたりして、電子回路をコントロールすることができるのが半導体の正体です。半導体回路は、縦横1cmくらいの板で、「半導体チップ」と呼ばれています。積み込む回路部品の数が多いほど、計算が早くできるので、回路部品をより小さくする研究に世界各国で凌ぎを削っているのです。因みに私たちが使うスマホには、100億個以上の部品が組み込まれたチップが入っているそうです。

